

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」記録



福地地区

平成29年11月28日（火） 午後6時30分から

福地ふれあいセンター〔グリーンホール〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

出席者等

懇談会の地区代表者	福地南部小校区：山下敏男代表町内会長
校区代表町内会長	福地北部小校区：鈴木民夫代表町内会長
地区関係市議会議員	岡田隆司議員、黒辺一彦議員
市関係者	中村市長、長島副市長、尾崎教育長、 近藤企画部長、齋藤企画部次長、渡辺総務部長、 長谷資産経営戦略局長、小塚危機管理局長、山崎健康福祉部長、 青山子ども部長、山崎地域振興部次長、金原産業部長、 牧環境部次長、加藤建設部次長、市川上下水道部長、 木村市民病院事務部次長、新實教育部次長、太田消防長 事務局：細田秘書課長、岩瀬秘書課長補佐ほか3名
出席者数	市民67人、地区関係市議会議員2人、市関係者23人、 報道関係者2人
事前意見・質問等	整理区分11件 内訳：意見1、質問8、要望2
自由意見等	整理区分15件 内訳：意見7、質問5、要望1、提案2

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」(福地地区)

○細田秘書課長

皆様、こんばんは。私は、この懇談会の事務局を務めます秘書課長の細田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会」福地地区を開会いたします。

初めに、本日の出席者をご紹介します。

この懇談会の開催にあたり、多大なるご協力を賜りました福地地区の代表町内会長の皆様で、福地南部小校区の山下敏男様、福地北部小校区の鈴木民夫様、また、市議会からは、岡田隆司議員、黒辺一彦議員、そして県議会からは、山田たかお議員、以上の皆様にご出席をいただいております。

そして、市からは、中村市長を始め、長島副市長、尾崎教育長、そして関係部局の部長、次長が出席しております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の予定をご案内いたします。

この後、15分ほどのお時間で、市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、福地地区から事前にお伝えいただきましたご意見やご質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

また、これら地区取りまとめのご意見とは別に、参加者の皆様から広くご意見をお聞きする自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対するご提案やご意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら、ご発言をいただきたいと思っております。

皆様との懇談のお時間は午後8時15分までとさせていただきます、その後、若干の事務連絡を申し上げて閉会いたしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、記録用として、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただき、懇談会記録は、準備でき次第、公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

○中村市長

皆さん、こんばんは。市長の中村健でございます。

本日は、福地地区の市政懇談会を開催させていただきましたところ、平日の夜の時間帯にもかかわらず、本当に多くの方々にご参加いただきまして、ありがとうございます。

また、日ごろは、市政各般にわたりましてご理解とご協力を賜りまして、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

それでは、市政運営についてお話をさせていただく前に、この福地地区におきましては、伝統行事や地域資源をPRするイベントが地元の方々の手によって行われておりますので、その幾つかをご紹介しますので、よろしくお願いいたします。

まず1点目ですが、10月22日、天竹神社で棉祖祭が行われました。あいにくの台風の影響によりまして、屋内での開催となりましたが、古式ゆかしい綿打ちの儀が披露されたということで、なかなか伝統行事の担い手不足に困っている地域があるのは事実でござ

ございますけれども、こうした文化や歴史というものは、今後とも大事にしていただきたいと思いますというように思っているところであります。

そして、2点目ですけれども、福地・花と美土里の会の皆様と地区町内会の皆様方のご協力によりまして、コスモス祭りが10月15日まで、斉藤町のJA西三河事務センターに隣接する休耕田で開かれました。

そして、3点目ですが、地元の児童や園児が農業体験を行ったということで、4月28日、福地南部小学校の2年生60人、6月17日、福地北部保育園の園児36人、6月26日、福地北部小学校の3、4年生75人が、それぞれ地元の農家のご指導によりまして農業体験を行ったということでありまして、今の時代だとスーパーマーケットでしか野菜を見たことがないような子どもも正直いるわけでありまして、こうした、土に触れるといいますか、農業の体験というのは、食育の一環としても非常に大事なことでありますので、地元の方々の協力あつてのものでありますけれども、今後とも続けていっていただきたいというように思います。

それでは、市政運営についてのお話を15分ほどでさせていただきたいと思います。

私が市長に就任させていただきましたのが7月5日でありまして、これで、もうすぐ5か月が経とうとしているわけでありまして、7月14日に議会が開かれまして、その場で所信表明を述べさせていただきました。この所信表明というものは、今後4年間、市政運営をどのような方向でやっていくかということをお述べるものでありまして、本日は、その中の内容を少し深掘りさせていただきながらお話をしたいというように思います。

この所信表明は、幾つか項立てにしてありますけれども、特に力を入れていきたいことが3点ありまして、市民主役のまちづくり、少子高齢化と人口減少への対応、厳しい財政状況乗り越えるための徹底した行財政改革というところになりまして、簡単に言えば、ここに4年間しっかりと力を入れていきたいという内容になるわけでありまして、

まず1つ目の、市民主役のまちづくりについてであります。協働などという言葉がよくいわれるようになって久しくて、これからの行政運営については行政と市民の皆さんで力を合わせながらというようなことで、これはどのまちでも言っているわけでありまして、自分自身も市長選挙を戦っていく中で、この福地地区も含めまして、本当に市内を隈なく回らせていただいて、多くの方と年代にかかわらずお話をさせていただく中で、特に多かったのは、市民と市役所の距離があるというようなご意見であつて、行政側の職員が少し上から目線でものを言ってくるというご意見もあれば、少し敷居が高くて、なかなか悩み事や相談事がしにくいといったようなご意見もありまして、簡単に言えば、これまで以上、もっと身近で頼れる職員であると全ての市民の皆さんに思っていたように、それが少しでも進むようにやっていきたいというように思っているところでありまして、組織全体としては時間がかかることかもしれませんが、本日このように顔を合わせて意見交換をさせていただくこともそうなのですが、中身のやりとりだけではなくて、お互いに思っていることをしっかりと率直に伝え合った上で、何か心の壁などをつくるのではなくて、しっかりとコミュニケーションをとりながら、一緒に西尾のこれからのまちづくりについて考えていけるような、そんな関係づくりをしっかりと

していきたいというように思っております。

それと、市が考えていることや今後やっていくことについて、市民の皆さんにお伝えして情報を共有していくことが大事かなと思っております。決まったことだけをお伝えするのではなくて、決まる前の段階で、現在こういうことを考えていますというところを、もう少し皆様方と相談といいますか、市民の皆さんの声を率直にお聞きしながら最終的な意思決定をしていきたいと思っております。これまでも、決まったことの説明などはしてきたと思っておりますが、それだけではなくて、物事が変わる前の段階で一緒に考えていけるようなそうした仕組みづくりもしていきたいと思っておりますし、そういった意味でも、こうした地区別の懇談会に限らず、市民の皆さんと意見交換をさせていただく場というのは重要だというように思っておりますので、よろしく願いいたします。

そして、この市民主役のまちづくりの中でもう一つお伝えしたいことが、全国的な傾向として、地域コミュニティの力が落ちているという問題意識を自分自身が持っています。伝統行事の担い手が不足しているなどということもそうなのですが、この福地地区においては、割合地域のつながりというのがまだまだあるのかもしれませんが、傾向としては、やはり年齢が下がるにつれて、そうしたつき合いなどを遠慮するような傾向があるのかなと思っておりますし、町内会のことなどについても、まだ60代、70代の方がお元気でいらっしゃるのです、そうした方のお力を借りながら何とか維持できている面などがあるかと思うのですけれども、これが10年、20年したときに、では、代替わりがうまくできるかというのは、結構深刻な問題かなと思っておりますし、そうした部分で、地域のコミュニティの力を取り戻すために、市としても、他の自治体の先進事例などを研究しながら力を入れていきたいというように今考えているところであります。

次に、2点目の少子高齢化と人口減少への対応について、お話をさせていただきます。

この少子高齢化と人口減少というのは、今の日本が抱える一番大きな問題でありまして、ボディーブローのように効いてくるので、すぐに少子高齢化がどこまで大きな問題なのかということが実感しにくいところではありますけれども、具体的には、税収が落ち込むですとか、市場規模が縮小しますので、物やサービスが売れなくなるとか、あとは現役世代における社会保障の負担が増えるとか、本当に多くのことが懸念されておまして、この人口減少をどう食いとめていくかというのが、政治の世界では大きなテーマになっているわけでありまして。

この二、三年ぐらい、地方創生ということが盛んにいわれるようになりましたが、この地方創生というのは、そうした人口減少への危機感を背景として、何とかそれを食いとめよう、その具体的な方法論としては、横並びのまちづくりをやるのではなくて、その地域ならではの特色とか強みを生かしたまちづくりをしていくことで、要は、他の市町村から自分たちのまちに住んでもらえる人口をいかにして増やそうかというところが一番醍醐味としてあり、西尾市においても、まだ若干人口は増加している状況でありますけれども、そう遠くない時期に人口減少局面を迎えると見込まれておりますし、そうした中で地方創生については、当然、力を入れていくべきテーマだと考えています。

その中で、具体的に、住みたいまち、働くことのできるまち、訪れたいまちという観点から、それぞれの政策を講じていきたいと考えているわけでありましてけれども、最初

の住みたいまちというところにつきましては、端的に言えば、いわゆる子育て世代の皆さんをしっかりと支援して、西尾市への定住促進を図ることでその人口を維持していくことが一番大事かと思っています。いわゆる子育て世代と呼ばれる30代、40代の人というのが、一番お金を必要としている年代でもありますし、消費活動とか税金を払うことを含めまして、その世代をしっかりと支援して、その年代の人口が増えれば税収も安定するというので、他の部分の行政サービスにもお金が投じられます。

では、それをするためにどうすればいいかというところではありますが、自分自身が選挙のときに訴えた政策を紹介させていただくと、実際に結婚をしたけれども、なかなか子宝に恵まれないというようなご家庭が最近増えています。そうしたときに、医療の力を借りるとするのは1つの有効な選択肢で、実際にそうした治療をされているご家庭もたくさんありますので、そうした方への助成を拡充するですとか、あとは子どもが産まれても核家族で共働きだったりすると、子どもが急に病気になったりしたときになかなか預け先がないというところで困ったりもしますので、そうしたときの病児保育というのですけれども、そうした保育の充実をしたりですとか、1つ何かをやれば子育てがしやすくなるということでもありませんので、幾つかの政策を組み合わせ、西尾市というのは、やっぱり子育てがしやすいと思っていただけるようなまちづくりを進めていきたいというように考えているところでもあります。

それともう一つ、住みたいまちというところでお伝えしたいのが公共交通の問題でありまして、市街地周辺などは、電車もあるし、バスもあるということで、比較的、公共交通については不便がないのかなと思います。今後、少子高齢化が進んでいく中で、歳をとった方は免許証を自主的に返納したほうが良いというような風潮もあるわけですが、では、免許がなくなったときに、西尾市において生活に困らないかといいますと、かなり困る地域がたくさんあるかと思っています。そうしますと、日用品をお買い物に行ったり、怪我ですとか病気をされたときにお医者さんにかかるとか、そうしたところというのは、やはり公共交通として責任を持って、どの地域に住んでいても困らないようなことはやっていく必要があると考えております。公共交通というと、バスが代表的なものでありますけれども、バスに限らず、いこまいかーという名称で西尾市は使っているのですけれども、自宅から最寄りの目的地まで運んでくれるような乗り合いタクシーのサービスとか、それぞれの交通機関の特徴をよく考えた上で、市内全体の公共交通の体系を見直しするように、今、担当の部署に指示をしておりますので、この福地地域ももちろんですが、市内の周辺部にお住まいの方についても、それほど大きな不便を来さないような公共交通のシステムをつくっていきたいというように考えているところでもあります。

続きまして、働くことのできるまちという観点については、これはしっかりと雇用を生み出すことと、産業の競争力を高めることに尽きるのかなというように思っています。

現在、西尾市では、企業誘致ですとか、ものづくり企業に対する支援などをしておりまして、1つの面としては、ものづくりのまちという部分の知名度向上とか、企業のバックアップをしていくということがあるわけですが、その反面で、農業とか漁業とか、いわゆる一次産業についても大変盛んな地域であるというのが西尾の大きな特徴

だと思っています。福地地区においても、もちろんそうなのですけれども、先進的な取り組みをしているところについては、その取り組みを後ろからしっかり支えるやり方、長所を伸ばすやり方が必要だと思いますし、その反面で、アサリなどが典型的な例でありますけれども、漁獲量が急激に落ち込んでいて、その産業自体が成り立たなくなってしまうような危機に直面している産業もありますので、そうしたところは公としてもしっかり守っていく中で、地域の産業がしっかりと育成できて、守っていけるような取り組みを進めていきたいというように考えております。

そして、3つ目の、訪れたいまちの観点については、これは観光に力を入れるというところに尽きるのかなというように思っています。西尾市が合併して、これで7年目になってはいますが、正直、合併前までは余り観光というところに力を入れてきませんでした。ですけれども、今の西尾市の状況を考えますと、抹茶とかウナギのような各種の物産以外にも、吉良に行けば温泉もありますし、吉良家ゆかりの名所旧跡ですとか、市街地周辺には六万石城下町としての歴史もありますし、幡豆のほうを始めとして、自然が豊富に残っている地域もたくさんあります。そうした多種多様な観光資源があるまというのは、正直、全国を探してもそんなにたくさんあるわけではなくて、あとは持っている観光資源というネタをいかに外に向けて有効にPRしていくかということが大事かなと思っています。愛知県で観光地というと、犬山とか蒲郡などが代表的な例でありますけれども、そこに負けないだけの力を持っていると思いますので、民間の活力をうまく使いながら、西尾の観光PRをしていきたいというように考えております。

次に、所信表明の3点目の大きな項目であります、厳しい財政状況を乗り越えるための徹底した行財政改革ということでありまして、現在、西尾市の一般会計と呼ばれる財布が大体550億円でありまして、この中に国からもらえる交付税というお金があるのですけれども、合併して特別にもらえていた分が今年度から段階的に減らされてしまう状況にありまして、5年後には、二十数億円入ってくるお金が減ります。550億円の中の二十数億円なので、全体の5%ぐらいが減ってしましまして、そのやりくりをどうするかということで結構厳しい財政を強いられている状況でありまして、1つには、稼ぐことをしっかりしようということで、先ほど申し上げました企業誘致の取り組みにさらに力を入れていくことはもちろんですけれども、ここ何年かニュースで取り上げられることが多いふるさと納税事業、要は寄附金を集めるということですのでけれども、それにも力を入れていきますし、あとは企業広告なども活用しながら、収入を増やすですとか、税金を払っていただくべき人に対してしっかりと徴収をさせてもらうですとか、そうしたことをやっていく中で、入ってくるお金を増やすということと、もう一つ、出るお金を制するというのもやっていかざるを得ないというように思っています。

時代の変化により、今、行政がやっているけれども、必要性が少なくなっている事業ですとか、あとはそこまで行政が大きくやる必要のない事業については、事業の縮小とか廃止も含めまして、ここはシビアにやっていかないといけないところだと思っていますので、市の中に行財政改革の委員会などが第三者機関としてあるわけですので、そうしたご意見も参考にさせていただきながら、場合によっては地域の皆さんに対して痛みをお願いすることも正直あるかと思っておりますけれども、将来的に持続可能な財

政をつくっていくということで、そこについても力を入れていきたいと思いますので、ご理解をお願いしたいというように思います。

そして、最後に、個別の政策について、幾つかお話をさせていただきます。

自分の選挙のとき、特に大きな争点として掲げたものとして、西尾市方式PFI事業の見直しというものがあります。これは、簡単に言えば、民間の力を借りて、西尾市の場合であれば、市営住宅とかプールとか体育館とか、公民館のような施設とか、トータルで200億円ぐらいになるようなものを1つの企業体に委託する中でやっていこうというものであるのですけれども、一連の過程において、市民の皆さんに対してご意見を聞くということが十分になされていなくて、市民不在のまま進められてきたというように自分自身は考えておりますので、現在、工事を一旦中断してもらって、市民の皆さんの声を聞くということをやっているところであります。明後日30日には寺津地区で行いますし、また12月に入って市役所のほうで説明会といいますか、意見交換会をさせていただきますので、そうした場で西尾市方式PFI事業の見直しについても、意見交換をさせていただきたいというように思っています。

それと、もう一つ、本日入り口で、産業廃棄物最終処分場の新たな建設に反対するというので、住民団体の方がチラシなどを配っておられたと思いますけれども、これは一色町の生田地区という海岸沿いの地区において、大きな産業廃棄物最終処分場が建設されようとしている構想というか計画というものがあります。こちらについては、自分が市議会議員だったときには、市議会が全員一致して反対の決議などもやっておりますし、現在も市としては明確に反対の姿勢を表明しております。理由としては、そうした施設自体の必要性というのは全否定するつもりはありませんけれども、一色の生田地区というところが、土地の事情などを考えますと、1つには大変漁業が盛んに行われているということ、そのようなところに大きな最終処分場ができてしまうと、風評被害というのがまず懸念されますし、あとは土地自体の液状化というものが大変懸念されておりますので、もし大きな地震が起きて、そこに埋まっているものが三河湾に流出なんかしてしまいますと、取り返しのつかないような被害が出てしまうということで、市としては反対をしているわけでありますけれども、感情的に必要なという反対だけではなくて、しっかりと理論的に裏打ちされて、この地域にそうした施設をつくるのが適切ではないということをしっかり主張できるように、現在、そうした環境分野なんかで専門の大学教授などにご意見を聞きながら考えをまとめているところであります。

この場で皆様方にお伝えしたいのは、一色の問題だというように捉えるのではなくて、やはり西尾市全体の問題として捉えていくことが大変大事であります。実際に物が埋められるなどというのは、その一地区の問題なのかもしれませんが、産業廃棄物を載せたトラックなどが1日何百台も来るということが想定されていますし、国道23号線などの大きな道路から一色まで行くというと、当然福地地区も通ることになると思いますし、福地地区に限らず、そうした大型のトラックが頻繁に通ることがいいか、悪いかということですし、先ほど申しましたような漁業の被害なども含めまして、西尾市として大きな問題であると捉えて、それに対しては反対の表明をしていきたいというように思っていますので、こちらについても、ご理解とご協力をお願いしたいというように思ってお

ります。

市政運営については、以上となりますので、この後、事前にいただきましたご意見、ご質問について、お答えをさせていただきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

○細田秘書課長

ただいま市長からお話のありました市政運営に関してご質問などがある方は、後ほど設けます自由意見交換のお時間の中でご発言いただくといたしまして、次に、福地地区から事前に提出いただきましたご意見やご質問などについて、市から回答をさせていただきます。

ここからは、今回の懇談会で、福地地区の代表者としてお力添えをいただいております福地南部小校区の山下会長に進行をお願いいたします。

本来ならば、市の主催ということで、市の職員が司会進行を務めるところであるかとは思いますが、この懇談会では、堅苦しくなく、活発にご意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存知の町内会長様に進行役をお願いしております。

それでは、山下会長、よろしくをお願いいたします。

○司会（山下会長）

皆様、こんばんは。本日進行役の、福地南部小校区代表町内会長の山下です。

皆様におかれましては、日ごろから町内会活動を始め、各分野でまちづくりにご尽力を賜り、また、本日は懇談会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日は、西尾市長を始め、市役所幹部の皆さんに直接声を届けることができるよい機会であります。限られた時間ではありますが、福地地区、さらには西尾市を住みよいまちにしていくため、有意義な意見交換ができればと思っております。

それでは、ご指名を受けましたので、ここからは私が進行を務めさせていただきます。進行にご協力をお願いしたいと思います。

初めに、福地地区から事前にお伝えしました意見や質問等に対して、市から回答をいただきます。限られた時間で効果的に懇談会を進めるため、あらかじめ6件の意見等をお伝えしてあります。これらについては、意見等を提出された町内会の代表の方に内容を読んでいただきます。

なお、市からの回答に対しての再度のご意見やご質問は、全ての回答があった後にお聞きしますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、1件目を鎌谷町内会長の鈴木様、お願いいたします。

○鎌谷町（鈴木町内会長）

こんばんは。鎌谷町内会長の鈴木と申します。よろしく申し上げます。

早速ですけれども、1件目、福地地区のまちづくりについてでございます。

福地地区は、スーパーマーケットや工業団地がなく、買い物や仕事は地区外に出なければならず、活性化が望まれます。

そこで、次の3点を申し上げます。

1点目、新たな工業用地に関する質問です。

市の都市づくり構想によれば、福地地区に新たな工業用地の計画的な整備が図示されていますが、現状はどうなっていますか。今後は、この基本構想をもとに、基本計画、実施計画、工事着手、完成と着実に進められることを望みますが、今後のスケジュール、具体的な建設計画はどうなっていますか。

2点目、農業副都心構想に関する質問です。

農業副都心構想として、農産物直売所や道の駅の建設構想はありますか。

3点目、憩の農園に関する質問です。

憩の農園は、新設道路で分断され、面積が現状の半分近くになると聞いております。J A西三河と市による、さらなる活性化の計画はありますか。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございます。市長、お願いします。

○中村市長

鈴木さん、ご意見ありがとうございます。

福地地区のまちづくりのうち、まずご質問の1つ目について、お答えをさせていただきます。

福地地区では、現在、西尾市浄化センター近辺の長縄町周辺地区、愛中西尾地方卸売市場近辺の宅野島町周辺地区、憩の農園北側の須脇町周辺地区の3地区が、新たな工業用地の計画的な整備が可能な地区に位置づけられております。長縄町周辺地区と宅野島町周辺地区は、数社の企業に進出や拡張をしていただいております。今後も企業進出が見込まれているところであります。

また、須脇町周辺地区については、農業副都心構想を踏まえて位置づけしたものでありますので、ご承知いただければと思います。

次に、ご質問の2つ目について、お答えをさせていただきます。

平成27年3月に策定いたしました農業副都心構想整備計画においては、農畜水産物直売所等の整備計画案は示しておりますが、道の駅の建設構想については示しておりません。これまで市は、農業副都心構想の事業主体としてJ A西三河がふさわしいと考えておりました。J A西三河と、この4年間ぐらい、ずっと協議を重ねてきたわけですが、いまだに事業主体の決定に至っていないというのが現状であります。今後、農業副都心という言葉を使うかどうかは別といたしまして、農水産業者の方々が、生産から加工・販売までを行います、いわゆる6次産業というのですが、6次産業化の推進と、西尾市を代表する観光資源であります憩の農園の活性化は必要であると考えておりますので、引き続き、J A西三河と話し合いを行っていきたいというように考えております。

そして、最後の3点目になりますけれども、憩の農園とバラ園の間を通ります、岡崎一色線というのですが、その一部となります市道斉藤市子6号線につきましては、平成

34年度中の開通を目指しており、これに伴い、現状よりも面積は減少しますが、半分近くになるということはございませんので、ご承知いただきたいと思えます。

そして、先ほど申し上げましたとおり、憩の農園の活性化については必要であるというように考えておりました。先日、私自身も部下に一方的に任せるのではなくて、JAの方とお昼御飯を食べながら、そうした憩の農園の活性化などについて話をさせていただいておりますし、今後もそうした定期的な懇談の場を設け、市とJAで協力しながら、憩の農園の活性化について考えていきたいというように思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。

続きまして、2件目を、菱池町内会長の蛭川様、よろしくお願いいたします。

○菱池町（蛭川町内会長）

菱池町内会長の蛭川でございます。よろしくお願いいたします。

2件目は、福地駅周辺の活性化についてでございます。

名鉄西尾・蒲郡線は、2020年度までの存続が合意されているものの、その後の確約が得られていません。名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会による活性化計画の実施により、多少の改善はされているものの、大きな改善効果は見られません。福地駅は、福地住民のみならず、一色地区住民にとっても重要な駅です。パークアンドライド、あるいは大規模住宅地開発といった駅周辺の開発による利用者の増加が必要と考えます。

2件目は以上です。よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

市長、お願いします。

○中村市長

蛭川さん、ご意見ありがとうございます。

2件目、福地駅周辺の活性化について、お答えをさせていただきます。

名鉄西尾・蒲郡線の乗客数は、西尾・蒲郡線応援団をはじめとする関係団体の熱心な活動や、団体利用等の運賃補助もありまして、平成19年度以降、増加傾向となっております。

そして、ご意見をいただきました福地駅周辺の開発についてであります。この地区は、市街化を抑制すべき区域であります、いわゆる市街化調整区域に所属するものでありまして、農用地を主とする土地利用が位置づけられておりますので、現行、宅地開発というのが正直難しい状況であります。

その一方で、市街化区域というものがあるわけですが、その市街化区域内には、現在、まだ多くの低利用地ですとか未利用地がございますので、まずはこれらの土地について、有効な土地利用を図りたいというように考えているところであります。

そして、パークアンドライドにつきましては、まず駅周辺の状況調査を行わせていただいて、その結果により、今後の方針を定めていきたいというように思いますので、よろしくお願いたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。

引き続き、3件目を、鵜ヶ池町内会長の木村様、よろしくお願いたします。

○鵜ヶ池町（木村町内会長）

鵜ヶ池町内会長の木村です。よろしくお願いたします。

3件目は、小中学校のプールの廃止・統合について、お尋ねをさせていただきます。

P F I 事業により、福地中学校、福地南部小学校及び福地北部小学校のプールを順次廃止し、寺津のプールを利用するようになるとお聞きしております。そこで、次の2点について、お聞きいたします。

1点目は、統合による経費削減のメリットについて、質問させていただきます。

寺津のプールを利用するには、約850人の子どもたちを送迎しなければならず、とても不便だと思っております。そこで、統合による経費削減のメリットとはどれほどですか、お尋ねいたします。

2点目は、非常用飲料水に関する質問でございます。

小学校及び中学校のプールの水は、災害時には移動式浄化装置の使用により、避難所の非常用飲料水として使用が計画されておりますが、今後プールが廃止された場合、どれだけの非常用飲料水の確保を考えていますか、お尋ねいたします。

以上、3件目の質問です。よろしくお願いたします。

○司会（山下会長）

市長、お願します。

○中村市長

木村さん、ご質問ありがとうございます。

少し長くなりますけれども、3件目、小中学校のプールの廃止・統合のうち、1つ目のご質問について、お答えをさせていただきます。

市内の小中学校のプールは老朽化が進んでおり、今後10年間で耐用年数を迎えるプールが多く存在し、更新に莫大な経費がかかります。このため、新たな維持管理の方針や学校プールのあり方を協議検討した結果、小学校では、民間温水プール等を利用することに切りかえ、自校プールは廃止し、中学校プールにつきましては、管理運営方法の検討をまいります。

こうした方針を持っているわけでありまして、これというのが、P F I 事業として進めてきた寺津温水プールというものを、つくるか、つくりたくないかというところは少し別問題でありまして、そことは関係なく、教育委員会として、市内全体の小中学

校プールのあり方について示したものであります。

他の地区などでも市政懇談会をやっておりまして、このテーマについてご意見などを伺うことがあるのですが、内容だけが先走って、しっかりと保護者の皆さんに説明が伝わっていないというより、していないのだと思いますけれども、本当に申し上げましたとおり、これで決まったからよろしくお願ひしますということではなくて、こういう方針を持っておりますという中でその小学校プールの民間利用をしますなどということだけではなくて、具体的に資料などを提示させていただきながら、市の今の財政状況がこういう状況で、切りかえた場合にこうしたコスト削減が期待できますとか、保護者の方々がご心配いただくようなことについては、こうした対応をしていきたいと思ひますとか、こういう形で、しっかりとご理解をしていただけるように十分な説明をしていく中で、こうした方針を持っているというところで進めていきたいと思ひしておりますので、一方的に、こうだからそのようになってしまうなどということとは違うということで、ご承知いただきたいというように思ひます。

それと、これまでの小学校プールと今後の民間温水プールを利用した場合のメリット、デメリットの比較でありますけれども、学校プールの場合は、小学校の都合に合わせて利用できることなどがメリットであり、逆に天候に左右されること、夏の期間のみの使用であります。年間を通じ、維持管理のコストがかかることなどがデメリットであります。また、民間温水プールの場合は、専門インストラクターのアドバイスが受けられること、天候に左右されないことなどがメリットであり、逆にプールへ行く時間がかかることなどがデメリットであります。

経費削減について、平均的な小学校の例で申し上げますと、これまでのように小学校プールを新規に建設した場合は、50年間の維持管理費を合わせて、1校当たり平均で約660万円。次に民間温水プールを利用した場合は、プールの利用料や移動経費を年間利用回数と掛け合わせ算出しますと、約340万円となり、これらを差し引きしますと、コスト比較としましては、1校当たり平均で1年間約320万円のコスト削減ができると考えております。

次に、ご質問の2つ目について、お答えをいたします。

まず中学校のプールについては、先ほどお答えしましたように、当面、使用することができます。仮に福地南部小学校及び福地北部小学校のプールが廃止されたとしても、非常用飲料水の確保手段として、福地中学校に100トンの飲料水兼用耐震性貯水槽というものが備えられております。その他、配水池からの運搬給水と、備蓄している保存水により非常用飲料水を確保することとしていますので、プールの廃止による影響はないものと考えております。よろしくお願ひいたします。

○司会（山下会長）

市長、ありがとうございます。

続きまして、4件目を、斉藤町内会長の神谷様、よろしくお願ひいたします。

○斉藤町（神谷町内会長）

齊藤町内会長の神谷でございます。よろしくお願いいたします。

4件目は、用水路（開水路）の維持管理に関する市の支援についてでございます。2点ありまして、1点目は、農業用水路や雨水路に関する要望です。

農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加及び農業用水のパイプライン化により、農業用水路や雨水路の除草や維持管理が年々困難になってきております。国・県・土地改良区の助成を受けて、町内会、花と美土里の会、実行組合等の活動により行っておりますが、豪雨時の排水対策として非常に重要であるため、市としての支援を考えていただけませんかでしょうか。

続きまして、2点目は、水路の暗渠化計画に関する質問でございます。

岡田市議のお力添えで、憩の農園周辺の水路の暗渠化計画を平成28年度に70メートル実施していただきました。ありがとうございました。またさらに、平成29年度に40メートル予定していただいておりますが、それ以降の水路の暗渠化計画はどのようになっていますでしょうか。質問は以上です。よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございます。

市長、お願いします。

○中村市長

神谷さん、ご意見ありがとうございます。

4件目、用水路の維持管理に関する市の支援のうち、まず1点目のご要望について、お答えをさせていただきます。

西尾市全体では、多数の排水路があり、限られた予算内で市が全ての排水路の除草等を行うことは、非常に困難な状況でございます。排水路は、農地からの排水とともに、皆様の家庭から出る生活排水、また下水道が整備された区域については、雨水も流す役割を果たしており、排水路を利用するために必要とされます除草等の日常的な維持管理については、原則として地元の皆様方をお願いをしているところでありますので、大変ご苦勞をおかけしますが、ご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたしますというように思っております。

なお、花と美土里の会の活動については、国・県・市により助成をさせていただいているところであります。

次に、2点目のご質問について、お答えをさせていただきます。

憩の農園南の水路につきましては、近接いたします都市計画道路岡崎一色線、先ほど話題に出た道路でありますけれども、この道路新設改良事業に伴う排水先の整備をするものでありますけれども、地元町内会の皆様方からの道路拡幅要望もあることから、水路の暗渠化をあわせて実施するものであります。昨年度、施工に着手し、本年度は新設道路付近まで整備を進めてまいりました。今後につきましては、新設道路の進捗にあわせて整備を進める予定でおりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。

引き続き、5件目を市子町内会長の板倉様にお願いしたいと思います。

○市子町（板倉町内会長）

市子町内会の板倉です。よろしくお願いします。

5件目といたしまして、福地地区の下水道整備計画について、お伺いいたします。

西尾市公共下水道の汚水であります。年次計画によりますと、福地地区は平成31年度以降の整備計画となっております。今後の計画はどのようになっていますか。

よろしくお願いします。

○司会（山下会長）

市長、お願いします。

○中村市長

板倉さん、ご質問ありがとうございます。

5件目、福地地区の下水道整備計画について、お答えをさせていただきます。

下水道の整備予定であります。西尾市行財政改革推進計画第5次実行計画というものがあるのですが、その中で本年3月、市街化調整区域における下水道の整備計画を見直し、事業採算性が難しい地域については事業を凍結するという方針が、市民の皆様のパブリックコメントを経た上で決定されているところであります。

下水道整備というものは公共事業であります。厳しい財政状況の中で事業採算性というものを考慮せずに進めるのも、なかなか困難な状況であります。現在、事業採算性の調査・検討作業を行っておりまして、有識者ですとか一般市民の方で組織いたします、西尾市上下水道事業審議会というところに諮って凍結区域を決定する予定であります。凍結区域になった場合は、代替措置といたしまして、合併浄化槽転換への補助というものを市のほうでさせていただいて、汚水処理対策を進めてまいりたいというように考えているところであります。

いずれにいたしましても、結論が出た段階で、市民の皆さんに対してはしっかりと説明をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございます。

これで最後になりますけれども、6件目を、福地南部福寿会会長の岩瀬様、お願いします。

岩瀬様は、西尾市代表の会長でもあります。よろしくお願いいたします。

○福地南部福寿会長（岩瀬会長）

こんばんは。福寿会の岩瀬でございます。

2点ございます。1点目は、県道312号線の要望でございますけれども、特にこれは、なかなか難しいこともあると思います。私が言いたいのは、巨海荻原線、要するに市子地域でとまっているということで、ぜひ開通させていただきたい。少子高齢化時代に、今、正直言って困っております。実質バスも通らないし、人が通れない、ぜひともお願いしたいと思っております。

幸い、福地行用地区事業、都市整備事業、環境整備事業、環境助成事業、それから、集落排水をやらせていただきました。大変それに対してご協力いただきまして、大変感謝しております。ここにみえる市川さんにも、非常にお世話になりました。

特に西尾は、そうした道路整備が非常に遅れている。要するに全然遅々として進んでいない。本当に残念でならない。こういったことを何とかやっていただきたい。

また、岡崎一色線についても、本当に道路整備が遅れている。何とか、これをお願いしたいです。こういう感じでおりますものですから、ぜひ、こうした事業をなるべく早くやっていただきたいなと思っております。いろいろ言いましたけれども、道路整備をよろしく願います。

○司会（山下会長）

岩瀬様、ありがとうございます。いい質問でした。

市長、願います。

○中村市長

岩瀬さん、ありがとうございます。

6件目、地区内の道路改善及び新規道路の建設状況のうち、初めに1点目のご要望について、お答えをさせていただきます。

愛知県では、要望をいただきました路線であります、県道荻原巨海線というのですが、そのかわりの代替路線といたしまして、東西方向に平行します都市計画道路徳永富田線というものの整備を計画しているところであります。現在は、市子町の県道豊田一色線の交差するところから、平口町の平口1号線交差部までの区間において、用地の取得や測量調査設計などを進めているところであります。そのため、西尾市といたしましても、今のその県道の拡幅よりも、この徳永富田線の計画路線を早く整備することによって、今の現県道におけます通過車両の減少が見込まれますし、通行の安全性の確保が期待できると考えておりますので、西尾市が平成34年度完了を目標に整備を進めております、先ほどから話題になっております市道斉藤市子6号線にあわせて供用開始がなされるように、愛知県に強く要望してまいりたいというように考えています。

そして、2点目のご質問について、お答えをさせていただきます。

この岡崎一色線につきましては、市が計画しております区間の南側から順に用地買収を進めているところであります。今年度末までに市子町内の用地買収を大方終えまして、今後は主に斉藤町の用地買収を進めていく予定でおりますので、よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

市長、ありがとうございます。

私ども福地地区から事前にお伝えした6件全ての意見や質問などに対しまして、市長からただいま回答がありました。

ここで、回答に対するご質問などをお受けします。ご発言に当たっては、挙手をお願いいたします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってから発言してください。

なお、限られた時間でありますので、要旨を簡素にまとめ、ご発言いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。伊々様。

○福地南部福寿会（伊々様）

お答えいただきまして、ありがとうございます。

新しく土地を買収していくのは大変です。ですから、現に土地が確保してある、そういうところから早くつないでいただきたいと思います。いろいろ予算もあります。ですから、土地を確保したところでやっていただける、こういうことでぜひお願いします。

○司会（山下会長）

担当部局の補足説明、お願いします。

○加藤建設部次長

建設部次長の加藤と申します。よろしくをお願いいたします。

今、言われたとおり、県道の関係でございますので、県のほうに強く要望していきながら、その辺を強く言っていきますので、よろしくをお願いいたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございます。

他にご意見がありましたら。

○市子町（カキハラ様）

市子町のカキハラといいます。

今の市道斉藤市子6号線の件です。積極的に進めていただいていますけれども、何にしましても福地地区、一応、環境整備が全般的に終わりました、用地がかなり確保されています。そういう意味からいしましても、道路整備、今、県道一色線の右折車線も大分進めていただいていますけれども、いずれにしましても、今現在、車社会において、これからの西尾市が車社会をどう有効活用して、西尾市民が有効的に活動できるまちづくりをするかは、やはり福地地区というのは西尾の中央なわけで、西尾市民が東西南北、福地地区をかなり利用してもらって、市民活動、営業活動、そういうものを進めていただくと、これからの西尾市は、さらによくなるのではないかと思います。

それから、もう一つ、今、大分渋滞しているのですけれども、衣浦岡崎線の宅野島の辺が1車線ですね。今、国道23号線のほうから、かなり2車線化が進んでいると思うのですけれども、宅野島の辺の2車線化がどうなっているのか教えてください。

○司会（山下会長）

カハラさん、ありがとうございました。
担当部署の回答をお願いしたいと思います。

○加藤建設部次長

建設部次長の加藤と申します。
これにつきましては、やはり今言われたように、県道で、県の関係でございますので、今、市長を筆頭に、愛知県のほうに極力早くやっていただけるように要望をしておりますので、よろしくお願いたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。
続きまして、他に意見はありますか。

○菱池町（ヒカ様）

福地駅周辺の回答、分かりました。ありがとうございました。
さらに、提案としてお話しすることは、駅のロータリー化はどうでしょうか。現状、通勤、通学を見ておきますと、暗黙の了解のもとに皆さん、県道から駅へ入ってきて、右に回って、県道へ出て、右、左という流れができていく感じがするのですよね。それで、通勤、通学の時間帯になりますと、やはり、車が停まってしまいうために渋滞して、二重、三重の形で駅のところにかたまってしまうということで、あの流れがよくなるような福地駅前のロータリー化はどうかというように考えています。

○司会（山下会長）

ヒカさん、ありがとうございました。
担当部局のご説明をお願いいたします。

○加藤建設部次長

建設部次長の加藤と申します。
今言われたロータリーですけれども、先ほど市長がご回答したように、まず駅周辺の状況の調査を行い、その結果を踏まえまして、検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。

その他に意見がありましたら。

○笹曾根町（ハサダ様）

笹曾根町のハサダと言います。

先ほどから、少子高齢化ということを非常に言われているのですけれども、いろいろなもののコストの削減だとか、そういったものをやると、一步間違えると非常に魅力のないまちになります。そういった意味でのベンチマークや、あと調査をやられた上でこういったことを進めていくのですか。僕の周りで聞くと、西尾市に住みたいという若者はいないので、わざわざ。僕、刈谷のほうで勤めているのですけれども、その辺を聞くと、わざわざ西尾市に住みたいという人がほぼいないです。新しく家を建てる人は、刈谷であったり、豊田であったり、なぜこちらのほうが魅力あるのか、そういったところの調査、分析というのは、やられているのですかね。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。

担当部局、ご説明をお願いします。

○近藤企画部長

企画部長の近藤でございます。

今、少子化の関係でご質問がございました。先ほど市長から説明がありましたように、今、地方創生と申しまして、西尾市に他市から来ていただく、まさしく家を建てるなら西尾市ということで、西三河の中で、西尾市というのは非常に土地が購入しやすい価格で、同じ金額を出すのであれば、庭のついた土地が買えるというようなことから、パンフレット等をつくり、各企業の厚生担当のところに置いていただいたり、あるいは不動産業者そういったところにも、西尾市の魅力を集めたパンフレット等を置いていただいて、ぜひとも西尾市のほうで、子育てがしやすい、自然豊かな環境のもとでお住まいくださいというようなセールスを、現在、一生懸命やっているところでございます。

先ほどベンチマークというようなお話もございました。地方創生の計画をつくる段階で、いろいろな統計データをもとに、例えば、先ほど言った土地の価格の状況を他市と比較したりもしておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会（山下会長）

企画部長、ありがとうございました。

時間の制限もありますので、あと1つだけ質問をお願ひしたいと思ひます。

○八ヶ尻町（ヤマザキ様）

八ヶ尻町内会長のヤマザキです。

須脇に建設される予定の給食センターと特別支援学校についてお聞きします。土地の確保を今進めているということでありましてけれども、現在の進行状況、そして、今後ど

のような計画で進めていかれるのか。また、施設の規模、定員など、細かいことが分かればお聞かせいただきたいと思います。

○司会（山下会長）

担当部局、お願いします。

○新實教育部次長

教育部次長の新實と申します。よろしくお願いいたします。

まず、特別支援学校でございます。これにつきましては、今、安城の特別支援学校の児童・生徒数が過大であると。それと、岡崎の特別支援学校への長時間通学、こうしたものを解消したいということで、愛知県が事業主体となって、県立学校として整備をしていきたいということで、市はそれに対して、学校建設に必要な用地を須脇町地内に確保するものでございまして、ほぼ確保ができています状況でございます。

学校の概要につきましては、知的障害の部門と肢体不自由の部門の複数の障害に対応する併設校ということで、愛知県下ではこういった学校は初めてということでありまして、小学部、中学部、高等部を備えたものでございます。

これからの事業計画でございますけれども、建物の設計につきましては、はっきりここでどれだけとは申し上げられませんが、建物の建設に1年から2年で、およそ3年から4年というように県のほうからは伺っております。

開校時期というのは、まだはっきりとは申し上げられませんが、1日でも早い開校を目指して愛知県に要望してまいりますので、よろしくお願いいたします。

今回、特別支援学校の建設用地確保のためにご協力いただきました地権者の方々並びに関係者の皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げるとともに、事業の推進に引き続きご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

それと、もう1点の給食センターにつきましても、この須脇町地内を考えております。給食の配送先につきましては、旧幡豆3町の小中学校と、それと今の特別支援学校への配送を考えておりまして、福地地区に小中学校は3校ございますけれども、そちらへの配送は考えておりません。福地を含めた旧西尾地区の給食につきましては、学校の校舎とともに個別に考えて、平成32年ごろまでには整備計画を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

給食センターの建設に向けても、また早期建設に向けて進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

教育部次長、ご回答ありがとうございました。

予定の時間になりましたので、これからは自由意見交換の時間として進めてまいります。時間は、午後8時15分までとさせていただきます。

皆様には、先ほどの地区のとりまとめの意見や質問にかかわらず、まちづくりに対する提案、意見、その他、地域の困り事、関心事などがございましたら、ご発言いただき

たいと思います。また、市長からお話がありました市政運営に関するご質問などがございましたら、ご発言ください。

先ほどと同じように、ご発言に当たっては挙手をお願いいたします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってください。

なお、より多くの方に発言いただけるよう、要旨を簡素にまとめてご発言いただきますよう、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、ご発言のある方は挙手をお願いしたいと思います。

○市子町（伊々様）

先ほどの公共下水関連で質問します。西尾市には、公共下水と集落排水がありますけれども、集落排水が2箇所ほどできております。これには皆さんが同じように負担をしております。ただ、公共下水と集落排水と使用料金が違うのですね。この辺というのは、今後見直していただける可能性はあるのですか。

○司会（山下会長）

お願いします。

○市川上下水道部長

公共下水道と農業集落排水事業の使用料の違いですけれども、今、公共下水道と農業集落排水事業を、平成32年度の企業会計化へ向けて作業を進めている状況でございます。使用料につきましても、その中の検討課題の1つでございます。それは西尾市上下水道事業審議会というものをつくりまして、今後、使用料の適正価格というものをその審議会で諮って決めていきたいというのを考えていますので、よろしくをお願いします。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。

引き続き、ご意見のある方は挙手でお願いしたいと思います。

○福地南部福寿会（伊々様）

市街地へ出るには、やはり道路がなくてはいけないということでございますので、そうしたことを考えて道路を整備し、そしてまちを活性化していただきたいと思います。

それから、全国老人クラブ大会がございまして、富山県富山市に行きました。そこでの森市長さんの話として、公共機関をなるべく使っていただいて、町で買い物をしていただくというようなことをとにかく徹底的にやっているということでございました。

ぜひ、そういうことを中村市長も考えていただいて、多少の投資はかかるけれども、年寄りが元気になることによって、将来的には医療費が安くなります。そうしたことを考えれば、決して高いものにはならないという考えでやってみえる森市長さんですが、そういう施策をぜひ中村市長も考えていただいて、今、金がかかっても、将来的には年寄りが元気になるれば医療費が安くなるということを考えていただきたいと思います。

○司会（山下会長）

大変良い意見、ありがとうございました。
市長、お願いします。

○中村市長

伊々さん、ありがとうございます。

まず道路については、市民生活はもちろんですけども、企業活動にも非常に重要であるという認識がありますので、県道については、県への要望とかになってしまいますけれども、決して道路整備を軽視しているわけではありませんので、しっかりと市としても進めていきたいというように思います。

それと、2点目もおっしゃるとおりでありまして、病気とか怪我の治療は大事でありますけれども、そういう状態にならないように、特に介護予防というものが、今、非常に大事でありまして、お年を召されても長く生き生きと生活していただけるように、そうした取り組みは進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

市長、ありがとうございました。

○福地南部福寿会（伊々様）

すみません。県に税金を納めているのだから、その税金をうまく使うというのか、ここに県議会の方がみえるけれども、県議も頑張ってください、西尾市のために本当に頑張ってください。よろしくお願いします。

○司会（山下会長）

伊々様、ありがとうございました。

まだまだ時間がありますので、ご意見等がありましたら、お願いしたいと思っております。

○鎌谷町（スギ様）

鎌谷町内会長のスギ様です。先ほどはありがとうございました。

私、先ほどのこと絡みで、自分自身で考えていることが1つあります。企業誘致ということで、三河というのは、みんな輸送機械関連がメインですね。ご存知のとおりです。そのような中で、それだけに頼っていると、やはり時代の波というのは変わっていきますので、何かを考えておいてほしいと。私は、例えばそういうことで考えれば、思い切ってどこかの大学を誘致するとか、変な言い方になってしまうのですが、もっと言えば、最近、エコ発電ですか、いわゆる炭酸ガスを出さない。そのようなことを考えていくと、西尾市というのは、合併して海辺がうまく使えるということを考えていただければ、風力発電というのは考えられないかな、そのように思う。これは突拍子もない考えですけども、何かそういうことで企業を活性化する、市を活性化するということ

を考えていかないと、皆さんが言うておられる高齢化でどうのこうのとか、もう目に見えているのですよね。それをどのように考えるかというのがやっぱり根底にないと、いずれはやっぱりとなってしまおうと思うんですよね。そのようなことをちょっと気にしています。提案です。

○司会（山下会長）

ｽﾞｷ様、ありがとうございます。

○金原産業部長

産業部長の金原と申します。ｽﾞｷ様、ありがとうございます。

おっしゃられるとおり、西尾市の製造品出荷額のおよそ4分の3は輸送用機器製造業で成り立っています。確かに、輸送用機器製造業が盛んだということで市税も潤っているわけですが、一つの業種に頼っていますと、ガソリン車から電気自動車に大きく移行した場合に、とても深刻な影響があると思います。そのため幅広い業種の誘致は必要だということに私どもは認識しております。

そこで、市長にも、東京で開催される愛知県のセミナーに行っていただくなど、西尾市の知名度を上げる取り組みをしております。さまざまな業種の誘致に今後も心がけてまいりたいというように考えておりますので、ご理解をお願いします。

○司会（山下会長）

産業部長の金原さん、ありがとうございました。

他に意見はありませんか。

私が指名してもいいですかね。一応、私も西三河農業協同組合の相談役をやっていますので、憩の農園の園長、何かご質問がありましたら。

○憩の農園（ﾊﾞﾀﾞ様）

ご指名がありましたので、憩の農園の園長をしておりますﾊﾞﾀﾞと申します。日ごろは、農協事業におきましても、地元の皆様にご協力いただきまして、ありがとうございます。

先ほどから、要望ではないですけれども、今後も、また常時、組合長を始め、役職員が市役所の方々といろいろな面でご相談をさせていただきながら、福地地区が少しでもよくなるように事業が進められたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

園長、ありがとうございました。

この回答、では金原さん。

○金原産業部長

ご意見、ありがとうございます。

先ほど市長も申されましたが、憩の農園というのは、西尾市を代表する観光地であり

まして、また、この福地地区の中心でもあるということで、私ども、この地域の活性化は大変重要なことであるというように認識しております。今後、JA西三河の皆さんとも手を携えながら、この地域がよいものになるように取り組んでまいりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

金原さん、ありがとうございました。
他に何かありましたら。何でもいいです。

○市子町（カキハラ様）

市子町のカキハラといいます。

少し無責任な話になると思うのですがけれども、今、国道23号線のところに物流基地ができて、一気に発展しましたよね。そういうことも考えると、今、西尾市は子育てということがあるのですがけれども、例えば福地南部地域のように、保育園、小学校、中学校がある、そういうところへ子育て用のマンションを誘致するとか、そういうことをやっってもらって、先ほども言われていたけれども、なかなか西尾市に住みたくなる人は少ないということもありますので、そういうことで要するにマンションなり、市営の子育て住宅をつくるとか、そういうことをやって、将来的なまちづくりを考え、子育て支援をやっていけば、効率よく、学校の近くなら通学時間も少ないし、さらに通学時間が少ない分、例えば運動をやったりとか、部活動をやったりとか、そういうことを、文武両道というか、それで、将来スポーツ選手も出たり、要するに、子どもは毎日長時間やるのではなくて、たとえ30分でも運動を毎日継続するということが子育ての一番いいことだと思いますので、そういう住宅のようなものを考えていただくといいかなと。これは無責任な話ですがけれども、よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

カキハラさん、ありがとうございました。
担当部局、説明をお願いしたいと思います。

○近藤企画部長

企画部長の近藤でございます。

西尾市に人を集めるために、子育て用のマンション、あるいは、そういった学校の近くに市営住宅、いろいろなご意見をいただきました。本当にごもったもなご意見で、西尾市をアピールできるような、そういった施策も考えてまいりたいと思います。市長がおっしゃったように、子育てには西尾市だというようなことで、一生懸命、子育て支援策を打ち上げながらPRをしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○司会（山下会長）

企画部長、ありがとうございました。

まだ時間がありますので、質問のある方。

○横手町（ツヅキ様）

横手町のツヅキといいます。

質問、要望ではないかとは思いますが、西尾市には、サッカー場ですとか野球場だとか、そういう皆さんがプレーを楽しむような環境、場所がないような気がするのですが、どういったものでしょうか。

○司会（山下会長）

担当部局、お願いします。

○尾崎教育長

ご意見、ありがとうございます。

おっしゃられるとおり、そうした公式な野球場ですとか、そういうものは不足していると感じております。そうした計画も、やはり費用が大きくなりますので、そういったことも考慮に入れ、まずは財源確保に努めながら、将来的には、そうしたものもつくっていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

教育長、ありがとうございました。

他に質問はありませんか。

○吉良町（フジイ様）

こんばんは。吉良町のフジイといいます。

場違いな質問かどうか分かりませんが、経済格差というか、格差社会といわれて、もう二十数年ぐらい経ちます。学力格差の問題なんですけど、経済的な貧困家庭に生まれたお子さん、市内でどれくらいの方が生活保護を受けられているかは分かりませんが、小中学校の子どもが学校の授業が分からないところだとかを質問したいときは、直接学校の先生にすればいいのですが、なかなかしにくいということです。私は昔、一応、塾の講師をやっていたので、子どもから話を聞くと、学校は質問しにくいから塾に行っただけで質問するということ、そういう感じがあったと思います。塾に行ける子はいいいのですが、貧困の世帯にたまたま生まれたお子さんについては、そういう場がないということで、無教養を生むような感じで、悶々としている子どもがどれくらいいるのかなというように思うのですが、一人一人、少子化の時代ですので、そういうお子さんもすくい上げながら授業についていかせるとか、高校、大学というように、やる気を持って取り組んでいただけるという人材を育てることにおいて、そういう貧困による学力格差をなくしていく必要があると私は思っています。例えば、学校の先生に質問できないところは、退職された先生だとか、地域のボランティアで、そういった場を学校内につくって、質問コーナーみたいな形にするとか、いろいろな案はあるのですが、図書館にそういうコー

ナーをつくるとか、そういったことを何か、市長は考えられているのかどうかということ、西尾市の状況がどうかということ把握されていますかということなんですが。

○司会（山下会長）

ありがとうございました。吉良町のツジ様、大変良い質問でした。

○中村市長

ご意見、ありがとうございます。

詳細な数値まで把握しているかということ、そこまで正直把握はしていないのですが、ただ、選挙のときも、子どもの貧困対策として学習支援に取り組みたいということを訴えてまいりました。

子どもの貧困対策というのは、結構近年になっていわれるようになったのですが、要は、貧困というのが世代を超えて連鎖していくというのは、やはり望ましくありませんし、教育というのは人づくりなので、余りお金で考えるのはよくないかもしれませんが、教育における費用対効果というのはやっぱり一番高いといわれている中で、貧困だからこそ、なかなか学習機会に恵まれないような子に対しては、やっぱりしっかりとした教育を受けられるような場を準備するとか、そういったことは大事だと思っております。

具体的にどういう形でやっていくかということについては、調査研究をしているところでもありますので、今、明確にこうしますというところは言えませんが、問題意識はしっかり持っている中で取り組んでいきたいというように考えていますので、よろしくお願いたします。

○司会（山下会長）

市長、ありがとうございました。

健康福祉部長、お願いします。

○山崎健康福祉部長

健康福祉部長の山崎でございます。よろしくお願いたします。

生活困窮家庭の学習支援でございますが、市としましては、平成30年度から、生活保護とか就学援助の支援を受けている家庭の中学生の方を対象に学習援助の事業を始めさせていただくということで、計画をしております。よろしくお願いたします。

○司会（山下会長）

山崎部長、ありがとうございました。

他にありましたら。

○笹曽根町（ハダ様）

笹曽根町のハダです。よろしくお願いたします。

先ほどから少子高齢化という話でいろいろ言われていまして、今の質問にあった話も

そうだと思うのですけれども、今こう見渡して、すごく異様に見えるのですよね。というのは、ほとんどが年をとられた方で、女性の方が非常に少ない。少子高齢化というところで、西尾市に住んでもらいたいというところを考えるにはもっと若い人、保育園に子どもを通わせている奥様方から意見を聞くことが必要と思います。女性の方というのは、よそから来た人が結構いるのですよ、やっぱり。西尾にお嫁に来ただとか。そうした方々からいろいろな意見をもらおうと、西尾の何がいけないのかというところが非常によく分かると思います。そういった取り組みというのは、なされているのですか。この時間帯、今日、会社を早引きして来ているんですよ。そういった方がかなりいると思うのですが、わざわざこの会に出るために、そういったところも考慮して、もっと、よそから来られた方、西尾に住んでおられる、僕も実はそうなんですけど隣の蒲郡から来て住んでいるのですけれども、いろいろ僕は不満があります。僕はできたら蒲郡へ戻りたい、刈谷に住みたいと思っています。そういう人たちは、いろいろ知っているのですよね。一番いい材料というのは、やっぱり住むに当たって一番権限を持っているのは奥さんなのです。旦那がここに住みたいと言っても、奥さんが嫌だと言ったら、まず住めないですよ。もっと積極的にそういう人たちの意見を聞く、一番いいのが、保育園に来ている奥さんたちに、よそから来た奥さんたちに聞くと、何が今不満なのか、西尾に何が足りないのか、もともと住んでいたところの、豊田市、刈谷市、岡崎市、東京と比べるから非常に分かると思うのですけど。

先ほどから、PRしています、PRしています、これは分かります。どこの市もやっているのです。何か変わったことをやらないと、少子高齢化などというのは、どんどん進んでいくと思うんです。ここにおられる方々を最後に下から支えるのは、僕らよりももっと若い人たちにここに住んでもらって、その人たちに税金を納めてもらって、支えるということ。そこが分っていないと。道路をよくしましょう、企業を誘致しましょうと言っても、決して、その少子高齢化、西尾は大きくならないと思いますけれども、僕の独りよがりなんですけど、そのように思っていますけれども、どうなのでしょう。

○司会（山下会長）

ハダさん、ありがとうございました。

市長。

○中村市長

ご意見、ありがとうございます。

同様なご意見を違う校区でもいただいたりしておりますが、地区別の懇談会は地区別の懇談会で意義があると思っております。

今年度は新たな取り組みとして、市内の高校生を対象にこうした懇談会を役所の中ですけれども、やらせていただいたりしましたし、今後、例えば子育て世代の女性に絞ったりとか、あるいはテーマを子育てに絞るとか、そういったやり方というのはあると思いますので、時間帯などの設定も含めまして、幅広い方のご意見を聞けるような形のやり方というのは考えていきたいというように思っています。よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

市長、ありがとうございます。
他にご質問は。

○行用町（ヤマダ様）

行用町のヤマダです。

三ヶ根山のことについて、要望があるのですが。私、昔、マラソン大会で走ったことがあります。三ヶ根山が国定公園になったのは、昭和35年だと思うのですがけれども、そのころはものすごく賑わいがありました。しかし、大分人気落ちて、余り人が行かないようになりました。国も観光立国ということで力を入れているのですがけれども、西尾市でも、西尾のシンボルである三ヶ根山に、八ツ面山にあるような展望台を設置してほしいと思います。よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

ヤマダさん、ありがとうございます。
担当部局、お願いします。

○金原産業部長

産業部長の金原でございます。ヤマダ様、ありがとうございます。

三ヶ根山につきましては、ご指摘いただきましたとおり、三河湾国定公園に指定されて、風光明媚な大変素晴らしい場所だということに思っております。

おっしゃられたとおり、現在ではちょっと寂れたような状況にあります。それで私どもといたしましては、春、秋、イベントを開催し、ちょうど今ごろはイルミネーションをやっているところであります。

展望台の設置につきましては、あの地域は市有地が余りなくて、民有地が中心ですので、なかなかそこを借りてまでというのは難しいかと思っております。ただ、山頂の駐車場から三河湾をご覧いただきますと、よく見えますし、その駐車場から少し山を登っていただければ、360度見渡すこともできます。皆様方、身近な三ヶ根山ということで、案外、逆に行かれないことが多いと思いますが、皆様ぜひ足を運んで、素晴らしい三河湾、そして夜景等をご覧いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

金原部長、ありがとうございます。
他に意見がありましたら。

○針曾根町（カガヤ様）

針曾根町のカガヤと申します。

先ほど市長が、西尾市と3町が一緒になって、観光とかで盛り上がるのではないかと

いうことを言われたと思うのですけれども、そういう発展はいいのですけれども、具体的にどうするかということをお聞きしたいです。例えば、特に吉良地区とか、その辺は歴史的に見ても、国宝が愛知県に3つあるのですけれども、そのうちの1つが吉良にありますよね。そういう歴史があるまちだし、それから、お茶とかウナギとか、自然環境とかいろいろあります。市長からも話のあった天竹の綿の神様をこじつけければ、この地区で言うと、トヨタ自動車の佐吉さん、自動織機をつくりましたよね。自動織機をつくった佐吉さんも、もとをいえば、綿から来た。それもPRするとかありますね。それから、今、大河ドラマでやっている今川ですね。今川さんの発祥の地は、西尾市だったのです。その辺の問題。それで今川さんといっても、歴史も古いし、それから駿府のほうにもいたし、織田信長さんと仲が悪いと言われていたし、その辺の歴史がいろいろありますね。

それから、重要文化財に関しても、西尾市は意外とあるのです。具体的に、こじつけではないのですけれども、綿の神社も、トヨタさんが今こうなったのも、綿の神社のおかげだとか、そういうものを先頭切ってやるとか。今年、私もたまたま秋田に行ったのですが、その秋田の市長さんも若いのですよ。一生懸命やっていました。西尾まつりとか、そういう行事に市長が出ているかどうかちょっと分からないのだけれども、そのように、市長という看板を掲げてやっていた。その市長のブレーンですね。環境に関してのブレーン、どのような人の意見を聞いているかということとか、通り一遍倒の、失礼な言い方をするかもしれないけれども、役所の発想じゃないのです。今のこじつけではないけれども、綿の神社も、今のトヨタさんがあるのも綿の神社のおかげだ。だから、トヨタは品質もいいじゃないですかというくらいの発想の転換とか、そこまで市のほうが考えられるかどうか。多分考えられない。だから、そういう発想。今、皆さん、こうやって仰々しく来られて、いろいろな人が来られて話もいいですよ。いいのですけれども、やはりそういうどれだけのことを市長がやってくれて、どれだけのブレーンを抱えているか。市長だけの考え方と市長だけの物の言い方では物事は進まないですね。同じ意見、同じ環境に育った中の人はいいい意見もあるのですよ。だけれども、いい意見ばかりではなくて、そういう変わったことをやっていかないとダメだと思います。西尾市が企業を誘致するのは当然ですよ。だけれども、他の市でも誘致をされていますよね。同じことをやって、追いかけていても意味はないですね。今、西尾市の中にはそういういい材料があるのだから、本当にそういう材料を突き詰めて、考えてやっているか。それに対して、どういう動き方をしているか、ブレーンがいるのか。通り一遍倒の考えでやられているのか。それは同じことですよ。進まないですよ。まだまだ任期が浅いからやられていないというのはよく分かるのだけれども、具体的にどのように行うのか。

もう一つ言わせてもらいますが、語弊があるかもしれないけれども、町内会というのは、要するに表向きは町内の小使さんなのです。奉仕でやって、まあそれは長年ここに住まわせていただいている、皆に世話になると、そういう意味も含めて行っています。末端のそういう人たちから、どのように、意見を吸い上げるというのもいいですよ。大事なことです。町内のこととか、苦情とか、いろいろな意見の人がいる中、そういう人

たちをいかに使って、吸い上げるか。

それから、観光の問題にしても、やります、やります。宣伝していますではなくて、やれることはいっぱいあるじゃないですか。その垣根を取り払ってやるのがやっぱり必要ではないですか。当然、役所の立場としてやれないこととかいろいろありますよ。

○司会（山下会長）

カガさん、失礼ですけれども、時間がありませんので、手短にお願いします。

○針曾根町（カガ様）

以上です。

○司会（山下会長）

市長。

○中村市長

ご意見、ありがとうございます。

観光について、お答えさせていただきますけれども、今、市の観光を担う大きな組織として、西尾市観光協会というものがあります。その事務局、企画とか書類作成とかをやるところを、合併間もないころまでは市の職員がやっておりましたので、実質的に観光協会ではあるけれども、西尾市役所の一部のような感じでありました。しかし、現在は民間の人材を活用しようということで、旅行会社の人材など、そういった民間の方々を中心に観光協会が構成されております。

市に商工観光課という部署もありまして、そちらのほうでは、行事、イベントの準備、当日の運営などをやっているわけでありまして、多分市の職員が一番苦手であろう、プロモーションとかPRとか、そういった部分を主に観光協会でもらっている状況でありまして、この取り組みの方向性としては、僕は正しいと思っているので、さらにアクセルを踏んでやっていくということなのですけれども、ご提案いただいたように、いいネタがあっても、いいんだよ、いいんだよと言っても、多分観光客の皆さんにはこう訴えるものが弱い中で、ストーリーをつくるということが一番大事だと思います。なので、今は、観光協会ですとか、あとは市内の飲食店さんなんかも、その食部会というのが観光協会の中にあるのですけれども、そうしたところで、市内で頑張っている皆さんとも適宜コミュニケーションをとりながらやっているところであります。そういったストーリーづくりなども含めて、観光協会ですっきり意見を言って、そうした方向で今後やっていきたいというように考えているところであります。よろしく願いいたします。

○司会（山下会長）

市長、ありがとうございます。

○金原産業部長

産業部長の金原でございます。

今、市長が申されましたとおり、西尾市観光協会は民間の発想で、今まで市にないような発想で、今、取り組んでいるところです。その成果といたしましては、どうしてもこの市単位でやりますと、西尾だけよければいいと、お客様を西尾に呼べばいいという発想が、どうしても市役所の職員は考えがちなのですが、観光協会を独立させたことによって、この三河湾というエリアを考えて、西尾、蒲郡、田原、南知多と手を組んで、GOGO三河湾協議会というものをやりまして、いろいろなツアーを組んでいます。

また、セントレアから、常滑、半田、碧南、西尾とかを組んだ連携もやっていますし、岡崎とかを組んだ連携事業もやっています。そういうそれで、この地元ですと、先ほどの棉祖祭でも、観光協会が主催したツアーを今年、企画させていただいたのではないかというように思っております。そういう地域のお祭りも入ったようなツアーも協会独自で組みながら、今まで市外の方に知られていなかったようなツアーも組んでいきたいというように思っております。

また、歴史的なものにつきましても、市内にたくさんあって、大変重要でございますので、それについても、やはり西尾単独では難しいということで、今、井伊さんの物語をやっていますが、今度は吉良家の話、忠臣蔵の話をもう1回大河ドラマに取り上げてもらおうという形で、全国的に手を組んで誘致をしているような状況でございますので、ご理解のほうをよろしく願います。

○司会（山下会長）

金原部長、ありがとうございます。

時間がありませんので、この辺で終わりたいと思います。進行にご協力いただき、ありがとうございます。今日は、皆さんから活発なご意見、いろいろなご意見が出ました。これからの西尾市の方向性が示されたので、よろしく願いいたします。

それでは、事務局へお返しします。

○細田秘書課長

山下会長、どうもありがとうございます。

それでは、閉会にあたりまして、市長がお礼のご挨拶を申し上げます。

○中村市長

本日は、長時間にわたりまして、ありがとうございます。

地区別の市政懇談会というのは、冒頭に申し上げましたように、2年に一度でありますけれども、だからといって、市民の皆様方とお話できるのが2年に一度というわけでは決してありません。後で、また紹介させていただきますけれども、市民の皆さんから行政に対してお声を届けていただく手段というのは幾つかありますし、また私自身も、福地地区には、イベントなどを始めとして何度も足は今後も運ばせていただきますので、見かけましたら気楽に声をかけていただいてももちろん結構ですし、今日、こうした場

でしっかりとご意見が言いにくい方もいらっしゃるかもしれませんが、そうした方について、別に市役所に来ていただいて、市長はいるかという形でおいでいただいても全然結構であります。

僕自身といたしましては、やはり市民の皆さんの声を全部が全部、反映することは難しいかもしれませんが、一緒に西尾市の将来について考えていきたいという考えはしっかりと持っておりますので、今後も、そうした懇談の場というのは大事にしたいと思っておりますし、できる限りこちらも、仕事の返答ではなくて、しっかりと心のこもったコミュニケーションをとりながら皆さんと懇談させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

○細田秘書課長

最後に、事務局から3点ご連絡いたします。

1点目は、本日、アンケート用紙をお配りしております。今後の事務の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力いただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具を出口の回収箱にお入れいただきますよう、お願いいたします。

2点目でございます。市では、皆様の声を市政運営に反映させるために「市民の声」の制度を設けております。市政に対してお気づきのことがありましたら、市民の声までご意見等をお寄せください。

3点目でございます。市では、さまざまな機会を通じて市民協働ガイドを行っております。これは、市職員が地域に出向き、市の事業などを分かりやすい言葉でお話しさせていただくとともに、地域の声をお聞きするものでございます。詳しくは、本日お配りいたしました案内チラシをご覧ください、会合等の際には、ぜひご利用ください。

連絡事項は以上でございます。

それでは、これをもちまして「市長と語る市政懇談会」福地地区を閉会いたします。交通安全にご留意いただき、お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。